

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0192902138), 法人名 (社会福祉法人かがやき), 事業所名 (グループホームかがやき 2階ユニット), 所在地 (旭川市末広5条2丁目4番1号), 自己評価作成日 (令和2年10月28日), 評価結果市町村受理日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一般住宅の中に立地しており静かな環境にあり、建物の周りも花壇や野菜を育てることで自宅での生活に近い環境作り心掛けています。今年コロナ禍の状況でご家族との面会や外出も自粛を強いられているが、普段はご家族や知り合いの方などがいつでも気軽に来て頂き、職員とも何気ない会話を楽しんで頂けるような場所となっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0192902138-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年10月7日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4つの理念を掲げ、職員が目につく所に掲示する事で、理念を振り返り共有実践できる様に努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加する中で行事に参加したり、地域ボランティアの受け入れをする事で交流を持つ様になっているが、今年は新型コロナウイルスの流行で実施出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の行事等で事業所の取り組みや利用者様の状況を発信する事で理解を得られ協力も得られている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回利用者の様子や状況を報告している。又、事故報告や身体拘束についても地域の方や御家族の意見を聞きサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用状況の報告や情報収集、又保護の方への協力や連携、市が主催する研修等にも参加する事で協力関係を築く様取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に職員と意見交換の機会を持ちながら取り組んでいるが、どうしても危険な事があり必要な場合もあるので、その際は御家族に同意をもらいながら定期的に検証しながら身体拘束廃止に向け取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所での研修や外部の研修に参加する事で虐待の認識をしっかりと持ち、職員全員が見逃さず事のない様に注意を払い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は成年後見制度の研修等を受け、必要性を話し合い御家族のいない方や疎遠になっている方の状況を踏まえ活用出来る様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項の説明をしながら利用時や解約時に不安や不信感の無い様に話し合いを持ち、理解納得して頂ける様努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見や要望が出せる様に入居者様に担当を設けより身近に話が出来様に工夫している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティング等を通して運営方針等の説明をし、職員の意見や考えを提案してもらい仕事に反映出来る様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握しながら、やりがいがある様職場環境を作る様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験やその力量を把握し、スキルアップに繋げる様、内部外部研修に参加してもらい、その知識をさらに職員全員に共有出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括や市の主催する研修や勉強会を軸に同業者との交流を持ち意見交換等で改善点やサービスの質を向上に向け取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や御家族が持つ不安や要望を聞き、少しでも安心して生活が出来る様に関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不安や要望を聞き、情報を共有しながらお互いに信頼関係を築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供開始に向け、現在必要な支援を色々な視点から見極め、医療面も含め生活支援が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で本人の意思決定を尊重し、職員の意見も聞きながらお互いが思いを共有出来る関係を築ける様努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いや希望を御家族と共に職員も共有する事で絆を作り、共に本人を支援していく関係を築く様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今迄大切にしていた親戚や友人の面会や馴染みの床屋等関係が途切れない様支援出来る様努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話のきっかけを職員が提供したり、皆で楽しめるゲームの時間を作りながら入居者同士が疲れない、依存しない、良い状況でお互いを支え合っている様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人や御家族の相談等に答えている様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや生活の中での希望が何か、又今迄の暮らし等も把握しながら本人の思いに添える様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人御家族の協力を頂きながらこれ迄の生活歴や生活環境を把握する事でサービス提供に組み込みながらプランに反映出来るに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の過ごし方や心身の状況を記録観察する事で職員一人ひとりが現状を把握し共有出来る様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く過ごせる様3か月に1回のモニタリング、6か月に1回のプランを作成しながら本人御家族職員の意見を反映させ生活の中で変化のある時はその都度カンファレンスを行い介護計画作成に繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活やケアをの様子を介護記録に記入しその記録を職員が共有しながら、違う角度からのケア等新しい工夫や見直しに取り組める様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の状況や希望に柔軟に対応しながら色々な視点で対応出来るサービスを取り入れて行ける様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア等地域資源を把握しながら安全安心で豊かな生活を楽しめる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や御家族等の希望を重視し納得した主治医にし、適切な医療を受けられる支援している。又、受診が困難な方には往診の方法もある事を説明しながら最善の方法を取り入れる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調や日々の過ごし方を看護職員、介護職員が共有し、体調の変化等に適切な判断と対応が出来る様努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院の相談員との情報交換を行いながら、経過報告、早期退院に向けて主治医との連携を取りながら関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に終末期の取り組みについての説明を行い、段階的に御家族や本人と話し合いを持ち、方針を共有し、地域の関係者と共に支援出来る様取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを用意し、研修等を受ける事で初期対応や急変時に慌てる事なく対応出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練の中に水害や雪害、停電等を想定した訓練も行いながら職員の意識を高め、町内会にも協力要請をお願いしながら地域とも連携が取れる様に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格の尊重やプライバシーにはしっかりと配慮し本人を傷つける事の無い様最善の対応が出来る様努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の思いや希望を理解し自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さんのペースを優先し、その日をどのように過ごしたいか希望に添える様支援してる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感のある服装やメイク等を継続出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者との食事準備等は状況として難しいが同じテーブルで食事を摂りながら会話したり、食欲の無い時は嗜好品を用意して食事を楽しんでもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取量を記録する事で1日の量を把握し体調やその時の状況にも合わせながら調整する事で体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを一人ひとりに促したり介助しながら口腔内の清潔を保ち、義歯についても1日に1回の洗浄をするように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄の状況を把握し、出来るだけトイレでの排泄を促し、オムツの使用を減らす様支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師との連携を取りながら毎日の排便の状況を申し送りで報告し、個々の状況に合わせた対応を出来る様にしている。乳製品を摂って頂く等の飲食物の工夫にも取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に沿った時間帯や曜日の対応は難しいが入浴後に気持ち良かったと思って頂ける様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調や日々の生活状況を把握し、その時々に合わせて夜間や昼間の休息を気持ちよく取ってもらえる様に取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については職員が内容や用法を理解、把握し、受診での薬の変更は職員間で周知する事で体調や状況の変化を見落とす事のない様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事をやって頂く事でやりがいや喜びを持って頂いたり、御家族との会話の楽しみ等で気分転換をして頂ける様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての希望に沿う事は難しいが状況に応じて買い物に行ったり散歩等戸外に出れる様にしている。また、御家族の協力をもらいながら外食やドライブの機会を作ってもらっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方が多く、御家族了承のもと預かり金として管理しながら本人が必要としている物を用意したり、本人と一緒に買い物に行きお金を支払ってもらう等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族に電話をかけてもらったり、手紙が書けない方には職員が代筆で近況の報告等をしながら対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では急な変化の無い様にし、季節の変化をベランダからも楽しめる様に花壇作りをしたり、雪の状況をみたりまた、掲示物に季節が分かる絵等を貼り居心地よく過ごせる様工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では本を読んだり一緒に歌を歌ったり、独りになり気楽に過ごせる様居場所の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに過ごせる様に馴染みの物や写真等を御家族と相談しながら準備し、心地よく安心して過ごせる様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内で手摺等を利用して歩行や車椅子でも安全に入れるトイレまた自分の部屋とわかるプレート等の使用で、本人の出来る、分かる能力を活かせる様に支援している。		